



放置材を燃料資源に

矢巾町西徳田の水清建設(水本孝社長)は二〇〇八年度、林地残材を木質バイオマス資源に活用するエネルギー供給モデル事業を実施した。間伐後の山林は製材原木に利用できない木材の多くが搬出費を確保できずに放置されており、木質チップやペレットなどに資源化するのが狙い。山林の樹木を直線的に伐倒する列状間伐がコスト削減に有効と分かり、地球温暖化防止や森林環境を保全する試みとして注目される。

水清建設(矢巾)がモデル事業

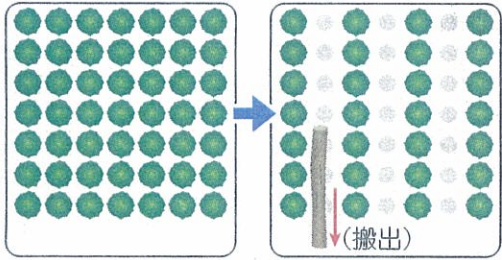
山林の間伐は林業の担い手不足や木材価格低迷で進んでおらず、間伐した木材も搬出経費を確保できず林地残材になる場合が多い。林地残材は林内環境を悪化させ、大雨で流出する危険もあり、処理が課題となっている。

モデル事業は林地残材を木質バイオマスに活用するため、紫波町山屋の山林所有者の協力を得て約4畝で実施。建設業の新分野進出を支援する盛岡地方振興局の補助金を受け、昨年九月



エネルギー供給モデル事業で間伐した木材をトラックに積み込む作業―紫波町山屋

列状間伐で搬出費減



【列状間伐】

同町の山林では一定の広さがある数カ所の平地まで樹木を全幹集材し分割して搬出。作業効率と搬出コストが飛躍的に向上することが裏付けられた。効率優先の列状間伐は優良木を伐採したり不良木が残ってしまう短所もあるが、木々への日当たりが良くなり、森林の状態は次第に改善されるといふ。

水本社長は「山林所有者に低コストで搬出できることを具体的に示せば、林地残材は減少する。公共事業の減った建設業が担い手不足の林業を支援し、一緒に取り組める可能性も秘めている」と説明する。

に開始した。

形質の悪い樹木を選び伐採する定性間伐ではなく、樹木を直線的に伐倒する列状間伐を採用。定性間伐で切った木は、その場で分割しなければ集材は難しく搬出経費がかかる。列状間伐は山林に列状の空間ができ、木を分割せず集材しやすい。